

第3学年道徳学習指導案

日時 平成27年 10月8日(木曜日) 5校時

場所 湯本中学校 3年B組教室

学級 3年B組 (男10名 女11名 計21名)

指導者 小岩 洋介

1 主題名 かけがえのない命 内容項目3-(1)

2 資料名 大震災日本列島が揺れた 高校生・高等専修学校75人の記録

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領の内容項目3-(1)に「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」とある。近年、社会の変容とともに生徒の生活様式も大きく変化し、自己の生命に対するありがたみや、自分の命が多く生命と関わって存在していることを感じ取る経験が少なくなっている。また、身近な人の死など命に直接関わる体験も中学生の時期に経験する人は少数であり、生命の尊さについて考える機会は減りつつある。

本学年では総合的な学習の時間の一部を使い、1年生の時から東日本大震災を題材とした学習を行っている。生徒はこの学習を通して実際に被災地を見たり、被災した方の話を聞いたりして、生命の尊さ、人間の強さや気高さを感じ取っている。

このような土台のもとに、実際に被災した高校生の話を通して、命の大切さ、儚さ、自分の生命と他者の生命の関わりに気付かせ、かけがえのない自己の生命を尊重する態度を養うことは重要であると考えこの主題を設定した。

(2) 生徒の実態について

本学級は、明るく素直な生徒が多い学級である。最高学年として、様々な行事を通し、人との関わり合いを大事にし、相手を思いやること、他者の気持ちを考えることが徐々に出来るようになってきている。また、どの生徒も学校生活や部活動などを通して培われた自己の存在意義や自己肯定感を持ちながら生活している様子が見られる。男女ともに新学期当初は日常生活のふとした際に、生命軽視の言動や発言が見られたが、今は少なくなっている。成長している面も多い反面、女子を中心に人に流されやすく自分の意思で行動出来る生徒が少なく、広い視野を持たず、主観的に物事を捉えてしまう生徒が多い。論理立てて物事を考えることが出来ず、感情的になってしまい、トラブルを起こすこともある。

今回の価値について4月に行われた新道徳性検査(教研式HUMAN IV)における「生命尊重」に関わる結果は以下ようになった。

	全国	学級
生命の尊さを知り、進んで自他の生命を尊重する。	24%	20%
生命の尊さに気付かず、自他の生命を大切に する気持ちが十分ではない。	24%	30%

以上のことから、生命尊重の項目は全国傾向よりも望ましくない方向にあることがわかる。そのため本資料を通して災害にあった人々の思いを知り、自らの命の大切さを深く自覚させることは極めて重要であると考えた。

(3) 資料について

東日本大震災の際、津波や火災で大事な人を失った人たちの当時の状況や今の思いを綴った高校生75人の記録集である。今回は、津波に飲み込まれて奇跡的に助かった実体験と、その津波で母と妹を失った悲しみを綴った濱田由治さんの文集を選んだ。

「好きでうまれたわけじゃない」という発言から始まる文集だが、この一文を継起に、東日本大震災で生き残った自分の命と真っ向から向き合う濱田さんの心情と心の変容を感じ取らせ、子ども達にかけがえない命について考えさせていきたい。また亡くなった方への思いとそこから導き出した決意を通して、命の尊さと自分の今後の生き方について考えることが出来る資料である。

前半と後半にわけ資料の読み取りを行わせる。前半では、自分の命に対して否定的な考えを述べる濱田さんの心情を読み取り、後半では、様々な葛藤とたくさんの人の支えを通して、かけがえない命の存在に気づき、前向きに生きることを決意する心情を読み取る。

(4) 研究との関わり

本校では、『生徒の表現力を高める「復興教育」の実践』を研究主題として取り組んでいる。本学年は、1年生の時から総合学習の一部の時間を利用して震災について学び、自分達の考えを持ち、それを後輩達に語り継ぐ活動を行ってきた。本授業では、これまでの震災についての学習で培ってきた道徳性や表現力を活かしながら、実際に被災された方の生き方や考え方を通して、生徒自身が自分の学び、心情をまとめ、仲間と交流しながら、自分の生活のあり方を考えることは、研究主題の達成にもつながると考えた。

表現活動のポイント

- ① 自分の考えをまとめること。
 - ・ 道徳シートに自分の考え（や気づき）を書かせる。
 - ・ 発問の吟味と考える時間の確保を行い、全ての生徒が自らの考えを持つことができるようにする。
- ② 自分の考えを「深める」「補う」「統合する」こと
 - ・ 多くの生徒に考えや気づきを発表させ、自分の考えと比べることができるようにする。

4 本時の展開

(1) ねらい

東日本大震災にあって生き延びた人々の思いを通して、自己のかけがえのない命の存在に気付く。

(2) 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	支援・評価
導入	<p>1 赤ちゃんの写真を見せる。</p> <p>○このクラスで誕生日をむかえて15歳になった人？</p> <p>○誕生日はどんな気持ちになりますか。</p> <p>2 濱田由治さんの文集の一文を黒板に貼る。</p> <p>○「好きで生まれたわけじゃない」</p>	<p>・大人に近づいて嬉しい。</p> <p>・祝ってもらえて嬉しい、幸せ。</p> <p>・どうしたのだろう。</p> <p>・震災の日にもまれた人だろうか。</p> <p>・自分の思いとは違う。</p>	<p>●赤ちゃんの写真を提示する。</p> <p>●紙板書を黒板に貼る。</p>
展開	<p>3 資料「15回目の誕生日」の範読を聞き、状況の把握を明確にする</p> <p>① 濱田さんが“好きで生き残ったわけじゃない”と思ったのは、どういう気持ちからだろうか。</p> <p>② 濱田さんが、“けれども今はそう思わない”と思ったのはどんなことに気付いたからだろうか。</p> <p>【主発問】</p> <p>③ 濱田さんがこの体験を通して決めた“希望は捨てない”ということはどのように生きることだろうか。</p>	<p>・母や妹が津波で亡くなり、自分だけが生き残って、悲しみのあまり全てがどうでも良くなったから。</p> <p>・たくさんの人が亡くなった中で自分だけが生き残り、申し訳ない気持ち。</p> <p>・自分の命は自分だけでなく、たくさんの人達によって支えられていたことに気付いたから。</p> <p>・自分が一生懸命生きることが、亡くなった母や娘のためだと思ったから。</p> <p>・全力で生きること。</p> <p>・何事も最後まで諦めず、生きること。</p> <p>・苦しいことや悲しいことがあっても、あきらめずに前に進むこと。</p>	<p>●資料の前半を配り、範読する。</p> <p>●ワークシートに記入させる。</p> <p>●机間指導を行い、どのような意見が出ているかを確認する。</p> <p>【道徳シート・発表】</p> <p>●資料の後半を配り、範読する。</p> <p>●ワークシートに記入させる。</p> <p>●机間指導を行い、どのような意見が出ているかを確認する。</p> <p>【道徳シート・発表】</p>

終末	4 命について書いている文章を読み、本時の授業のまとめとする。	・感想を書かせ、時間があれば数人に前に出てきてもらい、発表させる。	●資料を範読する。 ●ワークシートに記入させる。
----	---------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------

5 評価

- ① 濱田さんの文集をもとに、自らの命や生きることについて考えている。

一五回目の誕生日

好きで生まれたわけじゃない

主人公 濱田由治さん・中学校三年生

命の灯は消えなかった。

母と妹が亡くなる

命

- ・悲しみのあまり全てがどうでも良くなった。
- ・自分だけ生き残って申し訳ない。

けれども今はそう思わない

命

- ・自分の命はたくさんの人に支えられて存在しているから。
- ・自分が精一杯生きることが亡くなった方のためでもあるから。

希望は捨てない

- ・全力で生きること。
- ・最後まで諦めず、生き抜くこと。
- ・苦しいことや悲しいことがあっても前に進むこと。

〈 道徳シート 〉

3年 組 番 氏名

1

.....
.....

2

.....
.....

3

.....
.....

今日の授業を通しての感想を書きなさい。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....